



OTEMON GAKUIN

# 追手門学院大学 学術成果公開システムの構築

～機関リポジトリの提案～

# 追手門学院大学の現状

## ■ 研究成果の公開

紀要発行 5学部、3学科、2課程、2研究所 等  
いずれも紙媒体で発行、交換により配付

⇒ 交換・公開の対象者が限定される

対象を広げようとするコストがかかる(印刷費・送料)

## ■ 研究所が発行する2誌は電子化して本文を公開中

⇒ トップページよりも下位ページにある

統一的に検索できない

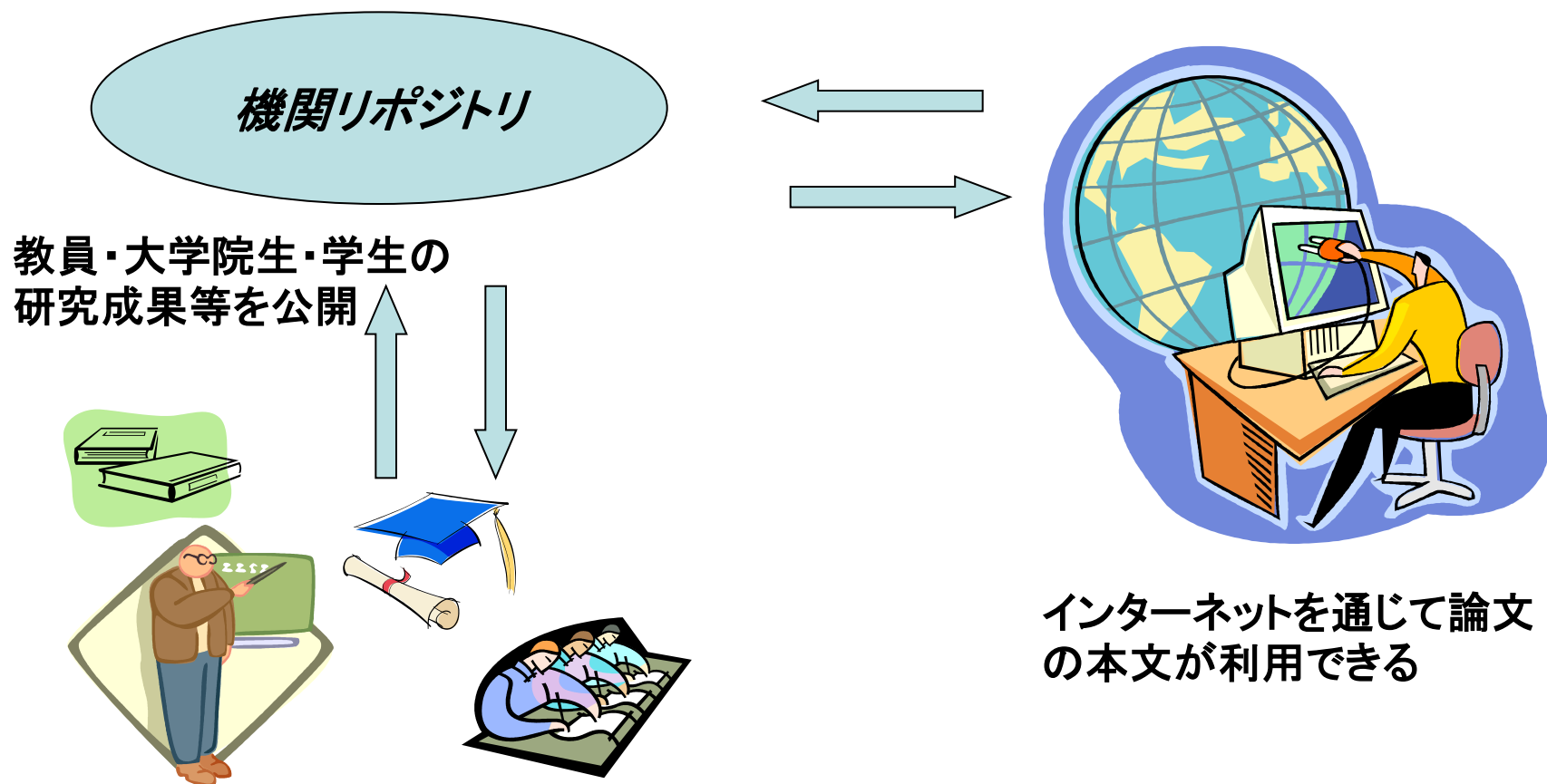
## ■ 社会から見たとき、本学の研究成果が見えにくい状態

## ■ 学内刊行物保存スペースの狭隘

これらの課題を解決する方法が「機関リポジトリ」

# 「機関リポジトリ」とは？

→大学等の非営利機関が、研究成果等の知的生産物を蓄積・保存・公開するための電子アーカイブシステム



# 「機関リポジトリ」のメリット

- Google等の検索エンジンで論文が検索できる  
世界中から論文の本文が利用できる

いつでも、どこからでも！

- 成果公開の対象に制限がない
- 複数の紀要に掲載された論文を一元的に提供できる

# なにが載せられるか？

- 本学の刊行物
  - 紀要
  - 学位論文(博士・修士)
  - 科研報告
  - 共同研究報告書
  - プロジェクト報告書
  - 学内発行物掲載論文
- 学術雑誌に掲載された本学教員の学術論文
- オープンアクセスの理念を重視し、機関リポジトリへの登録を許諾する出版社が増加している

# 大学への期待

(科学技術・学術審議会報告)

- 大学からの情報発信力の強化
- 大学の社会に対する説明責任の履行
- オープンアクセスへの対応
- 機関リポジトリに積極的に取り組む必要性

科学技術学術審議会

「学術情報基盤の今後の在り方について(報告)」

(平成18年3月23日)

**研究成果を公開することは、教育機関としての大学の責任を果たすこと**

# 導入に向けて

1. 全学的な推進母体の設置
2. 学内の意識改革、広報
3. 事務組織、体制の整備
4. システム構築
5. 運用指針・規程の確立
6. コンテンツの収集と構築

# 1. 全学的な推進母体の設置

成果の公開に対する本学の意欲を示し、学部  
学科および各教員の協力を得る

- 必要な規程の整備
- 紀要論文執筆規程の整備
- 電子化に関わる著作権（複製権、公衆送信権）を大学に委譲し、機関リポジトリで公開することを定める



## 2. 学内の意識改革、広報

学術成果の公開に関する意義を理解してもらい  
協力をえるように活動する

- 説明会
- 著作権講習会
- 経過報告

# 3. 事務組織、体制の整備

推進のための組織(委員会の設置)

運営担当部署の整備

総合情報教育センター … システムの構築、保守

学長事務室 … ①論文データ等の募集、受付  
②著作権処理  
③各種の成果報告書の刊行

図書館 … ①データの登録  
②論文本文データの作成  
③インターネット上に公開するために  
必要な目録(メタ・データ)の作成

# 4. システム構築

サーバーとソフトウェア

オープンソースソフトウェアであるDspace等

オーストラリア関係日本語論文データベース

## 5. 運用指針・規程の確立

## 6. コンテンツの収集と構築

- ・これまでに刊行された紀要論文の  
逆及データ作成
- ・著者の著作権許諾の取得
- ・データ化、登録
- ・学位論文

できるところから、公開する



**OTEMON GAKUIN**